

製品と生コンが交流

コンクリート技術交流会

日本コンクリート技術

第7回コンクリート技術交流会

(主催・日本コンクリート技術)が11月17日、午前10時から国際フアッションセンターKFCホール(東京都墨田区)で開催される。

この交流会は建設現場の最前線で活躍する建設技術者の役に立つ最新情報の提供を狙いとして、日本コンクリート技術(本社、東京都墨田区両国四一三八一、社長 篠田佳男氏)が平成16年から毎年開催しているもの。東日本大震災後は5回にわたり「コンクリート技術大会」として被災各地で開催。昨年「コンクリート技術



交流会」に戻している。

【参加費用】事前申込1万2960円、当日申込1万5000円(資料集CD-ROM代金・消費税込)。

【申込方法】日本コンクリート技術のウェブサイトで参加申込書をダウンロードし、EメールまたはFAXで申し込む。

【問い合わせ】日本コンクリート技術、電話03(5669)6651、FAX03(3632)2970。

【プログラム】

●開会挨拶(10時) 長瀧重義氏(東京工業大学名誉教授)

●パネルディスカッション(10時〜12時)「温度ひび割れのないコンクリートを目指して(仮題)」

温度ひび割れは半世紀の間、防止対策に取り組んでいながらも変わらず、現在においても解消されていない。パネルディスカッションでは、温度ひび割れのないコンクリートを目指す新しい技術情報、有用な既往の知見について議論を行い、現場に有用な情報を共有する場を提供する。

【パネリスト】▽石田知子(大林組技術研究所)▽江渡正満(清水建設土木技術本部)▽大友健(大成建設土木本部)▽小田部裕一(住友大阪セメント)セメント・コンクリート研究所)▽谷村充(セメント協会研究所)

【コーディネーター】金津努(電力中央研究所地球工学研究所、元JCIマスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会幹事長)

●パネル展示と出展社によるプレゼンテーション(13時20分〜16時20分)各出展社ブースで個別説明と質疑応答

▽愛知製鋼/ステンレス鉄筋コンクリートバー「サスコン」▽アストン協会/コンクリートの躯体防水、あるいは耐久性向上に貢献する「CS-21シリーズ」製品群▽竹中土木・アンピック/上部が閉鎖された空間のコンクリート充填性を向上させる「コンフィル

テープ工法」▽デンカ/できるをつくる。挑戦し続けるデンカの新技术▽ニチバン/ひび割れ補修材注入目止めシルター「せこタンTM」▽八洋コンサルタント/耐凍害性・施工性を評価する気泡計測装置▽ハレール/超耐久性コンクリート「ハレール」▽フローリック/未来をカタチに変える創造力▽前田工織/コンクリート耐久性向上に貢献する透水性シート「アバノン」▽前田製管/自走式プレキャスト製品多機能据付工法「MAJEST」(マジエスト)

●技術発表(16時〜18時)

①超遅延剤による温度ひび割れ防止事例について/牛山茂則(北沢建設) ②近赤外分光法によるコンクリート劣化調査について/舟橋政司(前田建設工業)

③フライアッシュのコンクリートへの有効利用/山本武志(電力中央研究所) ④コンクリート二次製品によるi-コンストラクションの推進/田中圭司(ヤマウ)

⑤建設業界における女性技術者の活躍と課題/渡邊弘子(月の泉技術士事務所)

●閉会の辞(18時) 篠田佳男(日本コンクリート技術)

●意見交換会(18時15分) KFCホール・ホワイエ